

コミュニケーション指導実践シート

対象	小学部1・2年生	教科・領域等	日常生活の指導（朝の会）
場所	教室	学習形態	集団学習

1 児童の実態

認知、身体の動きは実態差が大きく、視覚障害のある児童もいる。そのため、声や音等で補うことが必要であるが、声を出すことが難しい児童もいるため、直接的な触れ合い以外は教員が間に入って支援している。

2 児童の目標

- ・ 友達のことを意識して活動する。
- ・ 自分なりの方法で友達とコミュニケーションをとる。

3 実践

<指導の手立て>（名前呼びの場面）

- ・ 児童からの表出を引き出せるよう、十分に待つ。
- ・ 視覚障害のある児童や注視の難しい児童には、待つ間に今誰が何をしているか、教員が小さな声で隣から説明し、状況が把握しやすいようにする。
- ・ 直接的な触れ合いをする時間を設け、友達を意識しやすくする。

①一人ひとりピックマックを使用し、自分の動きでボタンを押し「名前の歌」を流す。



②待っている児童には、「今〇〇さんが〇〇をしているよ」と言葉掛けをする。

③友達と握手をすることで、友達の存在を感じ、意識できるように促す。



4 児童の変容（成果：○、課題：△）

○待っている時にも、友達の姿を想像して応援したり、静かに友達の音に耳を傾けたりできるようになった。

△表出の小さな児童の様子を児童が把握できるよう、鈴を付けたり、よりよい言葉掛けをしたりすることがもっと必要である。